

(二〇一六年度)

5 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は19ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいいねいに消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

—
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

理性という日本語はとてもしか¹つかつめらしく響く。哲学の世界でも、理性とはまるで完成された大人のように取り扱われる。理性自身がそのような自己認識を欲し、推奨している。しかし、これは不自然な話ではないだろうか。理性はもつと柔らかなところから生い立って、もつと遊びを許容するものではないだろうか。いわば理性の発現場に立ち会う努力が必要なのだと思う。以下にそのための糸口を提示してみよう。

アインシュタインは子どものころ、積み木の組み立てとジグソーパズルに熱中していて、言葉には関心を示さなかったという。この天才理論家が空間と時間をめぐる想像力をはぐくんだその一人遊びは、視覚的でもあれば、「筋肉感覚」的でもあった（E・H・エリクソン『玩具と理性——経験の儀式化の諸段階』）。ものにさわり、手を動かしながら考えるというのは自然な話である。²生産的思考は遊びに始まり、遊びに終わるといつても、ほとんど逆説にさえならない。

子どもの遊びに注目した理論家はほかにもいる。フロイトが「快感原則の彼岸」という論文で扱った「いない——いた」の遊びは、精神分析の方面ではよく知られている。彼は自分の孫を観察していた。とても聞き分けのよい子どもだったが、おもちゃをベッドの下などに放り投げて「いない」と叫び、それがまた姿を現すと「いた」と叫んで迎え入れた。フロイトの解釈では、この遊びは母親の不在を乗り越えることと関連していた。なついていた母が外出して「いない」状態になることは、子どもを不安にし、心に傷を与えかねないが、子どもはそれに「文化的」（フロイトの言葉）に対処した。つまり、おもちゃを母に見立て、進んでおもちゃを母を放り投げて「いない」状態にし、自分をそれに慣らしたのである。子どもは心の傷を自分自身で埋め合わせる遊びを発明した。フロイトはこれを、母親と一緒にいたいという自然的な衝動を放棄し、自分をコントロールする「偉大な文化的達成」と呼んでいる。

³「自然」からの脱出と自己支配は、ホルクハイマーとアドルノが批判した啓蒙的理性の特徴である。彼らの批判はとても本質的な点を突いているが、私たちが理性を簡単に放棄して自然的存在に帰ることができないのも事実である。理性への「批判」を

深める前に、とりあえずはフロイト、そしてアインシュタインに助けられ、理性が立ち上がる光景を目撃したことに満足しよう。

理性や知性がどう関与するかはしばらくおいて、私たちは世界のさまざまな事物や事態を「知覚」する。世界が存在するのとおり私たちは知覚するというのであれば、いちばん話は簡単なのだが、この素朴実在論では錯覚がなせ生ずるのかを説明できない。知覚については多様な理論が提起されてきたが、現在有力な説の一つがJ・ギブソンによる「アフォードダンス」の考え方である。

アフォードダンスは「アフォード(提供する)」という動詞からの造語である。環境がさまざまな情報を人間を含めた有機体と与えてくれるという意味では、アフォードダンスは生態学的(エコロジカル)な実在論であるが、その情報は有機体によってピックアップされなければ意味をなさない。木は子どもには木登りを、老人には木陰での安らぎを、難民には燃料をアフォードしてくれる。けれど、ある子どもには木陰での安らぎを、ある老人には燃料を、ある難民には木登りをアフォードしてくれるだろう。知覚は、環境が与えてくれる固定的・客観的な結果ではなくて、それぞれの人間が環境と交渉して引き出してくる情報であり、価値なのである。だから私たちの知覚や行動は、多くの場合、そのつど工夫されたり、偶然に発見されたりしたもの、いいかえると「創発的」なものである。

とくに、まだ文化的慣習を身につけていない小さな子どもは、環境と格闘し、とまどいながら、知覚や活動のパターンを手探りで試用し、少しずつ確立していかざるをえない。動物の一員として、子どもは移動しながらさまざまなものに出会う。動物はもつとも明確な反応(触ろうとして手を出すと吠えつく)を示すが、植物だって、無生物だって、子どもにはさまざまな顔を見せてくれる。

大人があまりに見知ったふりをしてこの世界を、子どもはそのつど違う相貌をもつものとして、時にはひりひりとした痛みや底なしのおそれとともに受け止める。下痢をして、おなかがひどく痛い。夜中に高熱が出てうなされる。大人であれば、苦しいながら先の見通しをつけ、薬を飲んだり、翌日会社を休んだりという算段をする。痛みは計算可能である。子ども

にとつてはそうではない。子どもはおなかの痛み、高熱に新鮮に出会い、震撼しんかんさせられる。これは一種の（死）の経験であり、死の先取りである。逆にいえば、⁸ 大人が死に近づくと、子どもの時の病との新鮮な出会いを繰り返すのかもしれない。ただし、人はいつも死を恐れてきたのかもしれないが、現代人は死について耳年増になりすぎている。死についての言説やイメージがあふれすぎている。私たちが沈着に死を指し示そうとしたとき、死はたして（怖い）のかどうか。

私たちはほんとうの子どもにさえ、なかなかきれないのだろう。子どもとはいえば、その小さな日常世界の中で、もしかするとジェット機で飛び回る政治家やビジネスマンにもまして、変化に満ちた経験を積みながら成長しているのかもしれないに。

子どもが社会的エージェント（行為主体）へと成長する過程を、現代のアフォーダンス論者 E・S・リードの『アフォーダンスの心理学——生態心理学への道』は巧みに描き出している。もともと、ここでいう「行為」はいわば黎明期れいめいのもので、明確な意図に裏づけられておらず、「行動」と呼んだ方がいいかもしれない。生後六週間のうちに乳児は、大人の顔をじっと見ながら、顔や手足や身体全体でさまざまな仕草をはじめめる。つまり、子どもは親や周囲の人たちをただ知覚し、観察しているだけではなくて、その人たちに合わせて、彼らにも検知可能な仕方で自分の行為を⁹ 変調することに成功するのである。その行為はまた親たちを驚かせ、喜ばせ、新たな行為へと誘う。こうして、人間に固有な「相互行為のループ」が確立するのだとリードは述べている。

顧みれば、しかつめらしい理性もまさにそのような相互行為の模索から生成してきたのであり、そのような相互行為のループの一変形なのである。類的他者への、つまり同じ人間への ¹⁰ 性が、人間を社会的存在とする。たとえ論争するにしても、理性は互いに ¹⁰ しあっているが、それはこのような基本条件のもとで可能になる。

（中岡成文『臨床的理性批判』より）

〔注〕アインシュタイン：ユダヤ系ドイツ人の物理学者で相対性理論の創始者。

フロイト：オーストリアの精神科医で精神分析の創始者。

ホルクハイマー、アドルノ：ドイツの哲学者で共にフランクフルト学派の中心的人物。

ギブソン：アメリカ合衆国の心理学者。

リード：アメリカ合衆国の哲学者、心理学者。

問一 傍線部「しかつめらしく」とはどういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 仰々しく
- b 気高く
- c 空々しく
- d 堅苦しく

問二 傍線部2について、「ほとんど逆説にさえならない」と言われているのはなぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 遊びの余地がなければ思考は創造的にならず、したがって生産的にもならない以上、遊びは生産的思考に不可欠だから。

b 凡人と違って天才の思考は遊びによつてはぐくまれることが知られており、天才にとっては遊びこそが生産性の母体だから。

c 思考というものはもともと身体の運動と結びついており、身体の運動を欠いた思考が非生産的になるのは当然のことだから。

d 思考は遊びの中ではぐくまれるので、非生産的に見える遊びと生産的思考が結びつくのは当然だから。

問三 傍線部3はフロイトの報告に即して言えばどのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a おもちゃを放り投げて見えなくし、またそれを発見するという遊びを通じて、母親とともにいたいという欲求を子どもが制御すること。

b 子どもが、母親に見立てたおもちゃを放り投げることによって、自分を置いて外出する母親に対する憎しみを克服すること。

c 子どもが、おもちゃがそこにある状態とない状態を自ら制御することができることに気づき、それとの類比で自分の不安を強めたり和らげたりすることを学ぶこと。

d 子どもが自分で発明した遊びに熱中して我を忘れることによって、母親の不在にまつわる不安を忘れることを学ぶこと。

問四 傍線部4のように言えるのはなぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 世界の事物や事態が私たちの知覚するとおりにしか存在しないとすれば、知覚が誤ることなどありえないから。
- b 私たちが世界をあるがままに知覚するのであれば、世界は他のしかたでは知覚されないはずだから。
- c 私たちの知覚が世界のありのままの姿を知らせるのだとすれば、誤った認識を常に修正できるはずだから。
- d 私たちが知りうる世界はすべて知覚のフィルターを通ったものだとするれば、すべてが錯覚であることと同じになるから。

問五 傍線部5にある「アフォーダンス」とは、本文の説明によればどのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 個々の有機体の知覚や行動は、環境の提供する情報によって規定されていること。
- b 情報は環境から個々の有機体に提供されるだけでなく、有機体から環境へも提供されること。
- c 環境が提供するさまざまな情報から、個々の有機体が新たな情報や価値を引き出すこと。
- d 環境と個々の有機体の相互交渉の結果、環境も有機体も情報を与えあつて変容すること。

問六 傍線部6はどのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 情報は有機体が知覚する以前に環境の中にすでに存在しているという考え方。
- b 有機体と環境との間には調和的共存関係がすでに成立しているという考え方。
- c 環境が有機体に情報を与えてくれるお陰で有機体が存続することが可能になるという考え方。
- d 有機体が世界に出現した後も、世界は以前と変わらず存在するという考え方。

問七 傍線部7はどのようなものか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 他にないまったく独創的なもの。
- b 脈絡がなく支離滅裂なもの。
- c そのときどきに新たに生み出されるもの。
- d 変化に富み予想不可能なもの。

問八 傍線部8とはどのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 年老いて精神的に衰えてくると、予測や計算によって病に対処する力も衰えるため、ふたたび子どもと同じように病に出会うようになる。
- b 人間は経験を積むことによって多様な立場に立って物事を考えることができるようになるため、子どもの立場に立って病に向き合うことができるようになる。
- c 年老いて多くの人びとの死を経験することによって、子どもの頃もっていた病の苦痛と死が結びつく感覚を取り戻す。
- d 大人は病の苦痛に対処する術を知っているので病の恐怖を免れているが、自分の死に対しては子どもが病に対するように対処するしかない。

問九 傍線部9について、「相互行為のループ」とはどのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 子どもは周囲の大人たちのさまざまな働きかけに応えることによって、さまざまな表情や身振りを学ぶが、それが周囲の大人たちを驚かせ、喜ばせることによって、大人が子どもに働きかける動機をいっそう強いものにする。

b 子どもはただ周囲の人びとのさまざまな仕草や身振りを模倣するだけでなく、独自の仕草や身振りをすることによって周囲の人びとが驚いたり喜んだりすることを知り、さらに新たな行動へと促される。

c 子どもは周囲の人びとに合わせてさまざまな表情や身体運動をしているうちに、新たな行動ができるようになるが、その変化に対する大人たちの反応が、さらに子どもを新たな行動へと促す。

d 子どもは周囲の人びとを知覚し観察することによって、多様な行動様式を学び、行動を変化させていくが、今度はその変化が子どもの知覚や観察に影響を与え、さらに多様な行動様式へと子どもたちを誘う。

問十 空欄10に入れるのもっとも適切な語句を次の中から一つ選べ。

a 創造

b 同調

c 肯定

d 啓発

問十一 本文の内容に合うものとして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 理性というものは、子どもと周囲の人びとや環境との相互作用のなかで発生し、成長していくものであり、初めから完成しているものではない。

b 理性というものは、個々の人間と環境との相互作用のなかで、偶然的で創発的な知覚や行動によって生じるものであり、人類普遍の能力ではない。

c 理性というものは、人間が身体を使って物質的な環境に働きかけるなかで形成されるのであり、もともと身体的・物質的なものである。

d 理性というものは、人間と自然環境の相互作用を通じて生まれるが、いったん文化として成立してしまうと、自然環境には還元できない性質をもつようになる。

二

次は、『今鏡』の一節で、右大臣藤原俊家の子のうち、後に大納言となった藤原宗俊についての記事である。これを読んで、後の問に答えよ。

その御子は宗俊の大納言、御母、宇治大納言隆国の女なり。管弦の道すぐれておはしけり。時光といふ笙しやうの笛吹きに習ひ給ひけるに、大食調だいじきちやうの入調にゅうちやうを¹いま、いまとて、年へて教へ申さざりける程に、雨限りなく降りて暗闇しげかりける夜、いで来て、「今宵、かのもの教へ奉らむ」と申しければ、いぶかりて²とくとくと宣ひけるを、「殿の内にては、おのづから聞く人も侍らむ、大極殿へ渡らせ給へ」と言ひければ、更に牛など取り寄せておはしけるに、³「お供には人侍らでありなむ、時光独り参らむ」とて蓑笠着てなむありける。大極殿におはしたるに、⁴「なほ覚束なく侍り」とて続松取り出して、更にもして見ければ、柱に藁着たる者の立ち侍るありけり。「かれは誰ぞ」と問ひければ、「武能」と名乗りければ、さればこそとて、其の夜は教へ申さぞ帰りにける、と申す人もありき。又、⁵かばかり心ざしありとて、教へけりとも聞こえ侍りき。それは、ひが言にや侍りけむ。

かの武能も、その道の上手なりけるに、誰にかおはしけむ、一の人の、「誰に習ひたるぞ」と問はせ給ひければ、「道の者にもあらぬ法師ばら、よく習ひたる者ありけるになむ伝へて侍る」と申しければ、「なほ、時光が弟子になるべきなり」と仰せ承りて、名簿書きて、それが家に至りて「それがし参りたり」と言はせければ、挑みて年来かやうにも見えぬ者として、驚きて呼び入れければ、時光が放出はなちでに笛つくろひて居たりけるに、武能、庭に居て昇らざりければ、袖のはた引き、昇せて、「いかが」と問ひければ、「殿の仰せにて、御弟子に参りたるなり」と言へば、いと心ゆきて、⁷「何をか習ひ給ふべき」と言ふに、「大食調の入調なむ、まだ知らぬものにて、⁸うけ給はらむと思ふ給ふ」など言ふに、気色変りて、太郎にて侍りける公里が前なりけるを、「この童に教へ侍りて後にこそ、他人には授け奉らめ、これは、たちまちに思し寄るまじき事」と言ひければ、⁹「この君伝へられむ事、たちまちの事にあらし」とて、名簿とり返して、帰りいでて、年経ける後、心深くうかがひて、聞かむとするなりけり。昔の物の師は、かくなむ心深くて、たは易くも授けざりける。その大納言は左様の道をたしなみて、やむ事なくな

むおはしける。

〔注〕○その御子…「その」は、右大臣藤原俊家を指す ○宇治大納言隆国…源隆国 ○時光…雅楽家の豊原時光。豊原公里

は、その子 ○大食調の入調…大食調は雅楽の調子の一つ。入調は、舞人の退場時に奏する曲 ○牛…牛車

○続松…松明 ○誰にかおはしけむ、一の人…「二の人」は太上天皇。今鏡は、時の太政大臣が誰であったかを明記し

ていない ○名簿…入門願い ○放出…母屋とは別の建物。離れ ○太郎…長男 ○公里…豊原時光の長男

○その大納言…宗俊

問一 傍線部1「いま、いま」とて、年へて教へ申さざりける」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 早く早くとせかされたが、相手の年齢を考慮して、お教えしなかった。

b 早く早くとせかされたが、自分が老いてしまったので、お教えしなかった。

c すぐにお教えしましょうと何度も言いながら、何年もお教えしなかった。

d 今は無理ですがいつかは、と何度も言いながら、何年もお教えしなかった。

問二 傍線部2「おのづから聞く人も侍らむ」の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a たまたま耳にしてしまう人があるかもしれません。

b 進んで聞きたがる人があるかもしれません。

c 自分から相談する御相手があるかもしれません。

d ひよっとして質問する人があるかもしれません。

問三 傍線部3「お供には人侍らでありなむ」の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a お供にはふさわしい方がないでしょう。
- b お供にはどなたも見えないでしょう。
- c お供の人がいなくなってしまうでしょう。
- d お供の人は一人もないようにして下さい。

問四 傍線部4「なほ覚束なく侍り」の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a まだ、曲をよく覚えておりません。
- b まだ、まわりに不安が残ります。
- c 暗くて、まだよく見えません。
- d 更に会いたい方がありません。

問五 傍線部5「かばかり心ざしありとて、教へけり」の説明として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 宗俊にはこれ程の意欲があるのだから、という理由で、宗俊に教えた。
- b 時光は、これだけは伝えておきたいという気持ちから、宗俊に教えた。
- c 武能にはこれ程の意欲があるのだから、という理由で、武能に教えた。
- d 武能には、これだけ教わりたい気持ちがあるという事を、時光に教えた。

問六 傍線部6「よく習ひたる者ありけるになむ伝へて侍る」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 頻繁に教わっていた人があり、その人から教わりました。
- b 深く習得している人があり、その人から教わりました。
- c 深く習得している人があり、その人に教えました。
- d 頻繁に教わりに来ていた人があり、その人に教えました。

問七 傍線部7「いと心ゆきて」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 音楽への武能の意欲の強さに、大変感動して。
- b 自分の弟子になりたいと言われて、大変満足して。
- c まさか入門の希望を聞くとは思わず、大変混乱して。
- d 武能の異常行動の理由を聞いて、大変驚いて。

問八 傍線部8「うけ給はらむと思ふ給ふ」の「思ふ給ふ」の説明として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 連用形「思ひ」の音便形「思う」に下二段活用の謙譲の「給ふ」が接続し、「思っております」の意味。
- b 連用形「思ひ」の音便形「思う」に四段活用の尊敬の「給ふ」を重ねて、「お思ひになっています」の意味。
- c 連体形「思ふ」の音便形「思う」に下二段活用の謙譲の「給ふ」が接続し、「思っております」の意味。
- d 連体形「思ふ」の音便形「思う」に四段活用の尊敬の「給ふ」を重ねて、「お思ひになっています」の意味。

問九 傍線部9「この君伝へられむ事、たちまちの事にあらじ」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 公里から伝授を受けるには、更に時間が掛るだろう。
- b 公里に伝授をなさるのは、すぐという事はないだろう。
- c 公里が伝授を受けるのは、すぐという事はないだろう。
- d 公里が伝授をなさるようになるには、更に時間が掛るだろう。

問十 傍線部10「年経ける後、心深くうかがひて、聞かむとするなりけり」から分かるのは何か、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 後半は前半の後日談であり、武能は、一度断られた秘伝の伝授を、時光に入門して再度願ひ出た。
- b 後半は前半の後日談であり、時光は、秘伝の伝授を一度断った武能を、弟子にしてもよいと考え直した。
- c 前半は後半の後日談であり、時光は、何とか武能の希望を叶えてやろうと、何年も慎重に機会を待っていた。
- d 前半は後半の後日談であり、武能は、何とか時光の秘伝を聞こうと、何年も慎重に機会をうかがっていた。

問十一 波線部ア、イ、ウ、エについて、その動作の主体が、それぞれ、A宗俊、B時光のどちらかを選べ。

- ア いで来て
- イ いぶかりて
- ウ 宣ひける
- エ 言ひければ

三

次の文章は慶滋保胤「池亭記」の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

東京四条以北、乾良二方、人人無貴賤、多所群聚也。高家比

門連堂、小屋隔壁接簷。東隣有火災、西隣不免余炎。南宅有盜

賊、北宅難避流矢。南阮貧、北阮富。富者未必有德、貧者亦猶

有恥。又近勢家容微身者、屋雖破不^{ドモ}得^レ葺、垣雖^{ドモ}壞不^レ得^レ築。

4 有樂不能大開口而咲、有哀不能高揚声而哭。進退有^リ懼、心神不^レ

安。譬猶^シ鳥雀之近^{ツクガ}鷹鷂^{センニ}矣。5 何況^シ轉^ズ広^ク門^ノ戸^ノ、初置^ス第^ノ宅^ニ。小屋相

并^シ、小人相^フ訴^ル者多^シ矣。宛^モ如^シ子孫去^リ父母之^ノ国、仙官^ノ謫^{タカセラルル}中、人世之

塵^ニ。其^ノ尤^モ甚^{ダシキ}者、或^{イハ}至^ル以^テ狭^キ土^ヲ滅^{ボス}中、一家愚^ク民^ト。或^{イハ}卜^{シテ}東河之^ノ畔、若^シ遇^ハ

大水、与^ニ魚鼈^ト為^リ伍、或^{イハ}住^ミ北野之中、若^シ有^レ苦^ク旱、雖^{ドモ}渴^ク乏^ク無^レ水。

彼、兩京之中、無^キ空閑之地歟。何其人心之強甚乎。⁶

(慶滋保胤「池亭記」)

〔注〕○東京—京都の東側、左京。

○南阮貧、北阮富—同姓の一族の中に、貧しい者も、豊かな者もいるということ。

○鷹鷲—タカやハヤブサ。 ○東河—鴨川。

○魚鼈—魚やスッポン。 ○北野—現在の北野天満宮の付近。

問一 傍線部1「人人無貴賤、多所群聚也」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 身分による差別がないため、大勢が寄り集まって住んでいるということ。
- b 身分の高い人も低い人も、多くの人々が一緒に暮らしているということ。
- c 多くの人が集まり群衆化したため、身分差が意味を持たないということ。
- d 様々な階層の人々が住み着いたために、身分の上下が生じたということ。

問二 傍線部2「比」と同じ意味で用いられているものを、次の中から一つ選べ。

- a 其誠可^レ比^ニ於^ニ金石^一。
- b 比^レ至^ニ其家^一、失^レ氣^一而^レ死。
- c 在^レ天願^ニ作^レ比^ニ翼鳥^一。
- d 比^レ其大小^一与^レ其粗良^一、而^レ賞^ニ罰^一之^一。

問三 傍線部3「富者未必有徳、貧者亦猶有恥」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 富裕であることが有徳の証になるとは限らないのに、貧しい者もやはりその貧しさを恥じている。
- b 富裕な人間に徳のある者がいたためしはなく、貧しい者がその貧しさを恥じることはない。
- c 富裕であるからといってまだ有徳の人とは言えず、貧しい者に対してなお恥の気持ちを持つべきだ。
- d 富裕な人間が徳を身につけないのは、貧しい者もやはりその貧しさを恥じるようなものだ。

問四 傍線部4「有楽不能大開口而咲」の書き下し文としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a たのしみあることあたはざるもおほきにくちをひらきてわらひ
- b たのしみておほきにくちをひらくことあたはざることあれどもわらひ
- c たのしみあれどもおほきにくちをひらきてわらふことあたはず
- d たのしむことあたはざることあるもおほきにくちをひらきてわらひ

問五 傍線部5「何況転広門戸、初置第宅」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a どうしてむやみに門戸を広げ、豪華な邸宅を作りはじめようなどと言いつくか、そのようなことを言うべきではない。
- b ましてその土地に引越して、はじめて邸宅を構える場合には、なおさら周辺の住民と対立することになる。
- c どうして職業を変えてまで、一族を繁栄させ、大きな邸宅を建てようなどと思うだろうか、いやそんなことは望まない。
- d ましてますます門戸を広げ、立派な邸宅を造りはじめるときは、いよいよ周囲の貧しい者は居場所を失うことになる。

問六 傍線部6「何其人心之強甚乎」は、作者のどのような気持ちを表しているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 周辺の人々の家や土地を奪ってまで、自分の宅地を広げようとする金持ちたちの強引さを非難する気持ち。

b 繰り返し自然災害にあっても、恐れることなく鴨川のほとりや北野に住み続ける人間の強さを賛美する気持ち。

c 金持ちたちの横暴に、訴訟を起こして抵抗しようとしたが、そのために家を滅ぼしてしまった庶民をあわれむ気持ち。

d 洪水や濁水のおそれがあるにも関わらず、あくまで鴨川のほとりや北野に住もうとする人間の強情さにあきれむ気持ち。

問七 「池亭記」の後半部分では、池のほとりのささやかな住まい（池亭）に閑居する喜びが語られる。この「池亭記」の影響が色濃い作品はどれか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 山家集

b 方丈記

c 徒然草

d 奥の細道

